

## ポリープと隆起性病変って同じものなの？

**A** ポリープの語源はpolypols（ギリシャ語で「多数の足」の意でタコを表します）であり、生物学上はクラゲ類の底性生活期を指し、触手を伸ばす突起状構造が特徴です。ポリープが増えて成長すると遊離のクラゲになります。触手を広げた様子がタコに似ているのでポリープと呼ばれます。

医学では「**ポリープ**」と記述し、粘膜の**隆起性病変**の呼称として使われます。医学的病変では触手はありませんが、ポリープと隆起性病変はほぼ同義です。ただし、隆起性病変が粘膜のわずかな盛り上がりをも表すのに対し、ポリープの語には「境界が明瞭な隆起」というニュアンスがあります。

粘膜以外の部位（たとえば皮膚）でも、周辺に比べて盛り上がった病変はポリープと呼ばれます。最も日常的に遭遇する病変は、大腸や胃などの消化管粘膜にみられるポリープです。肉眼的あるいは内視鏡的に周辺と比較して盛り上がっていればよいので、良性か悪性かは関係ありません。扁平上皮や円柱上皮といった上皮細胞に由来する病変のこともあれば、こうげんせんい 膠原線維や肉芽組織にくげのような間質組織に由来することもあります。このように、ポリープという語は多様な病変を含んでいるといえます。なお、歯肉のポリープは「エプーリス」と称されます。

大腸に最も多いポリープは良性腫瘍の**腺腫**です。良性腫瘍の一部にがんが合併

していることもあります。これは**腺腫内がん**といわれ、腺腫の一部ががん化してできるものです。

次に多いタイプは**過形成性ポリープ**です。これは腫瘍ではなく、細胞数が反応性に増加（**過形成**）した結果、粘膜が盛り上がったものです。潰瘍性大腸炎のように粘膜が著しく損傷される疾患では**炎症性ポリープ**といい、肉芽組織あるいは粘膜上皮の再生性過形成による粘膜の盛り上がりポリープとして認識されます。胃では過形成性ポリープが多く、腺腫は比較的少ないのが特徴です。ポリープ状の進行胃がんは、**ボールマン** 1型と呼ばれます。

消化管粘膜では内視鏡所見に基づいた**山田分類**（**図**）が用いられます。山田分類（I～IV型）の基本は、ポリープの茎が明瞭に認識できるか否かにあります。

消化管では隆起性病変と**陥凹性病変**（**潰瘍**とも呼ばれ、浅い潰瘍はびらんとして区別されます）を区別することが大切です。

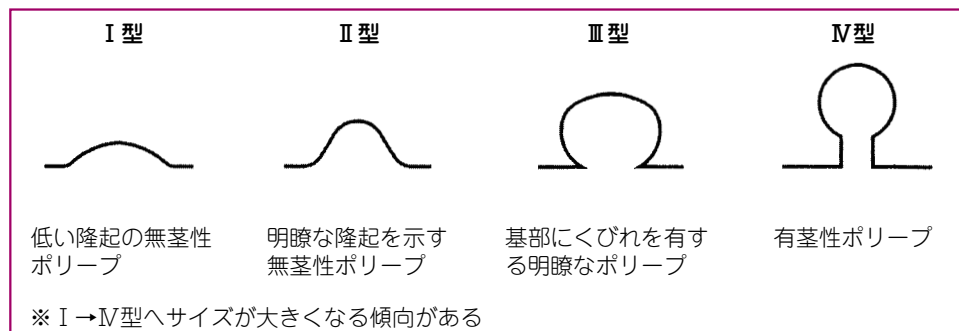
潰瘍にも良性潰瘍とがん性潰瘍があります。十二指腸潰瘍の多くは良性の消化性潰瘍ですが、胃ではがん性潰瘍の頻度が少なくありません。早期胃がん（III型）あるいはボールマン2型ないし3型が潰瘍形成を伴います。消化性胃潰瘍かがん性潰瘍かの最終診断は、生検による病理診断にゆだねられます。

●**腺腫内がん** ……………  
ボールマン分類は進行胃がんの肉眼分類で1～4型に分けられる。1型は限局隆起型、2型は限局潰瘍型、3型は浸潤潰瘍型、4型はびまん浸潤型（スキルス型）で、この順に予後（タチ）が悪くなる。

●**過形成** ……………  
何らかの刺激に生体が反応して細胞数を増やす結果、大きさが増大する状態（過剰増生）。分裂能力のある組織に生じる適応反応で、細胞増殖は一定の限度をもつため、自律性かつエンドレスに増殖する腫瘍とは異なる。通常、過形成ががん化につながることはない。

●**炎症性ポリープ** ……  
炎症の結果、組織の再生・修復反応が局所的に過剰になり、ポリープ状を呈した場合を指す。潰瘍性大腸炎が最も有名。

●**胃がんのボールマン分類** ……………  
炎症の結果、組織の再生・修復反応が局所的に過剰になり、ポリープ状を呈した場合を指す。潰瘍性大腸炎が最も有名。



図●ポリープの山田分類